

.....編集後記.....

◆新年を迎えて、今年こそはと思っておりましたが、2月の声を聞いてしまいました。光陰矢のごとしと言いますが、まさにその通りです。筑波も寒くなって風が吹き抜け空気が澄んできたためでしょうか、地質調査所から富士山が見えます。

◆昨年の暮れに読者から掲載記事に関して新しい情報をお知らせいただきましたし、また、電話で内容が難しいとお小言もいただきました。東南アジアの鉱物資源記事を連載してきましたが、メコン河流域の開発委員会の資料として取り上げられるとのこと。なんらかの反応があるということはあるがたいものです。

◆現在は情報の氾濫している時代だといわれています。しかしながら、情報ってなんなのでしょう。情報とは発信側と受信する側が共通言語を持たないと成立しないと思います。地質屋は様々な地質情報を発信してきたことは事実ですが、それが広く社会に情報として受け取られているのかどうかをもう一度、皆で考えて見るべきかもしれません。研究者というものは、とかく我田引水的になりがちなもの

です。これからも、いろいろなご意見、お小言をお寄せください。

◆さて、今月号はメタンハイドレートの特集で紙面が構成されています。昨年、東京で開催されました地質調査所の研究講演会の際に「地質ニュースで是非特集して欲しい」との要望が多く寄せられました。本特集はその声を反映したものです。

◆この特集を読みますと、21世紀の資源として期待されるメタンハイドレートとは何かという疑問が氷解するようになっているはず。ご一読下さい。

◆我々の生活には色々な資源が必要ですが、天然資源は必ず枯渇することになっています。資源の研究は新しいものが必要になって、あわてて始めても間に合いません。メタンハイドレートのように先手を取った調査・研究が人類の未来を救うのではないのでしょうか。

◆日本では鉱山も無くなり資源の研究には逆風が吹いているようですが、資源屋が一人もいなくなったらどうなるのだろうか、しみじみと考えさせられるこの頃です。
(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(山崎 浩・谷田部信郎)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第510号	1997年	2月号
	定価	¥770	〒実費
1997年2月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者	林 光生	
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		
	Tel. (03)3265-0951(代表) 〒102		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社ケイ・トゥー・ワン		

©1996 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。